

お薬のしおり

No.161 (H27.7)

東京医科大学病院 薬剤部

まつ毛貧毛症治療薬について

まつ毛貧毛症とは、まつ毛が不足していたり、不十分な状態を指し、その原因としては皮膚や全身性の基礎疾患によるものや薬剤誘発性の脱毛症などが挙げられます。

まつ毛は、汗や日光、ホコリや異物から目を保護すると共に、その人の顔つきや表情と眼元をつくる役割もあり、まつ毛の魅力は、長さ、太さ、濃さで決まるとも言われています。最近では、まつ毛の美容関連製品も多く登場しており、医療用医薬品以外では、マスカラ、つけまつ毛、まつ毛美容液などがあります。また、つけまつ毛やまつ毛エクステンション（まつ毛を長く濃く見せるために行うメイクアップ技術）なども普及しています。しかしその一方で、様々なトラブルも急増しているのが現状です。国民生活センターによると、2010年度以降、まつ毛エクステンションの施術を受けたことにより目が痛くなった等の危害情報が599件寄せられており、毎年100件以上で推移しています。まつ毛エクステの接着剤が目に入ったり、毛をつまむピンセットが眼球に当たったりして治療が必要となるケースも生じています。（平成27年6月：国民生活センター報道発表資料より）そこで今回は、まつ毛貧毛症の治療に用いるお薬について正しく理解し、適切なご使用をしていただく方法をご紹介します。

まつ毛貧毛症の治療を目的とした日本の厚生労働省から承認された医療用医薬品には、「グラッシュビスタ外用液剤0.03%（5mL）」という薬剤があります。これは、2014年9月に日本では発売が開始され、各雑誌等でも数多く取り上げられています。しかし、このお薬は医療医薬品であるため、医師による処方のもと、正しく使用することが必要です。

（※当院では皮膚科・眼科・形成外科より院外処方せんでのみ処方可能です。）

<グラッシュビスタについて>

このお薬は、「ビマトプロスト」という成分を有効成分とす



る、上まつ毛の長さ、豊かさ（太さ）、濃さを改善する外用薬です。

特徴ビマトプロストとは、内因性の生理活性物質であるプロスタグランジン F2 α に類似した構造を持つ成分で、従来から緑内障治療を目的とした眼圧を下げる点眼薬（商品名：ルミガン）として使用されています。これは、ぶどう膜流出路を介して、房水とよばれる目の中の体液の排出を促進して眼圧を下げる効果があります。その一方で、お薬の有害事象（薬物との因果関係がはっきりしないものを含め、薬物を投与された患者に生じたあらゆる好ましくない、あるいは意図しない徴候、症状）として、まつ毛の成長が多く認められたことから、このビマトプロストという成分がまつ毛の成長を促進する作用を有することが示唆されました。その後、まつ毛貧毛症に対する臨床試験が行われ、お薬の安全性および有効性が確認されたことから、まつ毛貧毛症の治療として用いる医薬品として発売されました。

使用における注意

- ・お薬に添付されている専用のアプリケータ（ブラシ）を使用し、点眼薬としては使用しない。
- ・洗顔後の清潔な上眼瞼辺縁部へアプリケータを用いてお薬を塗布する。
- ・ベンザルコニウム塩化物によりコンタクトレンズを変色させることがあるので、コンタクトレンズを装着している場合は、塗布する前にいったんレンズを外し、塗布 15 分以上経過後に再装用する。

副作用主な副作用として、結膜充血、眼脂、皮膚色素過剰、眼瞼紅斑などが報告されているため注意が必要です。

参考まつ毛美容関連製品の中で、国内でまつ毛貧毛症の治療薬として承認されている医療用医薬品は上記のみですが、他にも個人輸入やインターネット経由で販売されている製品が多くあります。しかし、そのように入手したお薬は、品質や有効性、安全性の確認が十分でないことや思わぬ健康被害を招く可能性があるなどの危険性があることを知っておくことが重要です。このため、自分ひとりで判断せずに、家族の方などと話し合い、また、かかりつけの医師、薬剤師などにご相談されることをお勧めします。

お薬のことでご不安な点やご不明な点がある際には、医師又は薬剤師までご相談ください。

